

第6学年 音楽科学習指導案

児童 男子13名 女子10名 計23名
指導者 中野美由紀

1 題材名 重なり合う音の美しさを味わおう

2 題材について

(1) 教材について

本題材は、学習指導要領音楽の5・6年A(2)アの「歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の仕方を工夫すること。」イの「拍の流れやフレーズ、音の重なりや和声の響きを感じ取って、演奏したり身体表現をしたりすること。」(3)アの「呼吸および発音の仕方を工夫して、豊かな響きのある、自然で無理のない声で歌うこと。」をねらいとしている。

これまでの学習では、拍感やフレーズ感、強弱の変化などに気づき、気持ちを込めて歌ったり互いの旋律を聴き合って演奏したりする能力を伸ばすことを目指して学習を進めてきた。ここでは、響きを意識した合唱を体験し、音が重なり合って響く美しさを味わい、表現を楽しむ活動につなげていきたい。

(2) 児童について

子どもたちはこれまでに合唱活動に継続して取り組んできた。歌うことに苦手意識をもっている子が数名いるものの、意欲的に歌う子どもが多い。これまでの学習では、基礎的な練習をゲーム感覚で取り入れ、発声や音の重なりに気を付けて表現に取り組むことができるよう進めてきた。また、グループ活動では、友達と表現を聴き合って、そのよさや美しさに気づくことができるような視点をもたせる活動を積み重ねてきた。その結果、旋律の重なりを意識して歌ったり、音の重なりを感じて表現しようとしたりする児童の意欲の高まりが見られるようになってきた。しかし、今なお音の重なり合いを味わって表現するまでにはいたっていない。

(3) 指導について

これらの実態から、この題材では2部合唱や3部合唱、楽器での副次的旋律を入れた表現を体験しながら、美しい表現を目指して工夫する活動に取り組ませる。曲全体の構成に気づいたり、歌詞や旋律からイメージを膨らませたりして表現を工夫するなかで、音の重なり合いを感じ、その響きを味わうことができるようにしたい。

このような活動に主体的に取り組んでいくため、本題材では、「こだわり」として、学習の中で大切にしたい音楽の要素を学習の視点としてもたせる。また、「ふるさと」では、個人の「こだわり」をもとにグループを構成し編曲を選ばせ練習に取り組ませる。それぞれのグループの実態に応じて、「こだわり」を根拠に曲想を工夫させ、「こだわり」を意識した表現ができるよう支援していきたい。また、他のグループと演奏を聴き合うために「交流タイム」を設ける。交流タイムでは、表現や編曲の違いに気づかせ、重なり合う音の変化や美しさを感じ取らせたい。さらに、お互いの発表を聴きその表現のよさに気づき、次の自分の表現に生かしていこうとする力を高めていきたい。

(4) 教材曲

- ア 勇気ひとつを友にして (片岡 輝 作詞 越部信義 作曲)
- イ ふるさと (文部省唱歌 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲)
- ウ 赤とんぼ (三木露風 作詞 山田耕筰 作曲)
- エ 箱根八里 (鳥居 忱 作詞 滝廉太郎 作曲)

3 題材の目標

重なり合う音の響きの美しさを味わって聴いたり，豊かに表現したりすることができるようにする。

4 評価規準

- (1) 音楽への関心・意欲・態度【観点ア】
 - ・声や音が重なり合う美しい響きを味わって，豊かに表現しようとする。
- (2) 音楽的な感受や表現の工夫【観点イ】
 - ・声や音が重なり合う響きを感じ取って，美しく響き合う合唱や合奏を工夫している。
- (3) 表現の技能【観点ウ】
 - ・声や音が重なり合う響きを感じて，豊かに歌ったり演奏したりすることができる。
- (4) 鑑賞の能力【観点エ】
 - ・いろいろな演奏形態による合唱の響きを味わいながら聴くことができる。

5 指導計画及び評価 (8 時間扱い)

次	時	ねらい 学習内容 ・学習活動	【評価規準】(評価方法)	教材
第一 次	1	<p>曲想や旋律の特徴を感じ取って歌う。</p> <p>描かれている情景を想像して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞にこめられた情景を想像する。 ・ 主旋律を練習する。 ・ 副旋律を覚え 2 部合唱をする。 	<p>【観点ア】歌詞の中の情景を想像したり，旋律の流れを感じたりして表現しようとしている。(観察・カード)</p> <p>【観点ウ】声や音が重なり合う美しい響きを味わって表現しようとしている。(観察・カード)</p> <p>【観点イ】旋律や音の重なりを生かして表現の工夫をしようとしている。(観察、カード)</p>	「勇気ひとつを友にして」
	2	<p>歌と楽器をあわせて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の重なりを感じながら 2 部合唱をする。 		
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器のパートを練習する。 ・ 歌とのバランスを考えて演奏する。 		
第二 次	4	<p>歌声や合唱の響きの美しさを味わって聴く。</p> <p>歌声の美しさを感じ取って鑑賞し，演奏形態の違いや響きの違いについて話し合う。</p>	<p>【観点エ】歌声の美しさや演奏形態による響きの違いを感じ取って聴くことができる。</p>	「赤とんぼ」 「箱根八里」

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人の声の特徴を知る。 ・ いろいろな演奏形態を知る。 ・ 気づいたことを交流し合う。 		
第三次	5	<p>音の重なり合う美しさを味わって演奏したり聴いたりする。 描かれている情景を想像して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞にこめられた情景を想像する。 ・ 主旋律を練習する。 ・ 低声部を覚える。 	<p>【観点ア】歌詞に描かれている情景を想像し、主旋律を歌おうとしている。(観察)</p>	「ふるさと」
	6	<p>音の重なりを感じて3部合唱をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲の構成に気づき、音程に注意して合唱の練習をする。 ・ 自分の「こだわり」をもつ。 	<p>【観点ア】歌詞と旋律のかかわりを感じ取って合唱しようとしている。(観察・発表・カード)</p>	
	7	<p>重なり合い方に気をつけて、表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループをつくり、歌いたい編曲を選ぶ。 ・ グループに分かれて練習する。 	<p>【観点イ】自分の「こだわり」をもち、表現に生かそうとしている。(観察・カード)</p>	
	8 本時	<p>互いの演奏を交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの演奏を聴き合い感想を交流する。 ・ 出された感想をもとに練習する。 	<p>【観点ウ】重なり合う音を意識して表現しようとしている。(観察・発表)</p>	
9	<p>それぞれの表現を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに発表し合う。 	<p>【観点エ】互いの表現のよさを味わって聴こうとしている。(観察・発表・カード)</p>		

6 本時の展開

(1) 目標

重なり合う音に気をつけて表現することができるようにする。

(2) 展開

段階	学習内容	学習活動	支援(・) 評価()
導入 10分	1 既習曲を歌う。	・ 今月の歌を歌う。	・ のびのびと歌うように声をかける。
	2 学習課題を把握する。	・ 全員で「ふるさと」を歌う。	・ 拡大譜を見ながら、前時までの学習を想起し、それぞれの「こだわり」を確認させる。

<p>自分たちの「ふるさと」を表現しよう。 ～重なり合う音の響きに気をつけて～</p>		
展開 30分	3 グループ練習	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに分かれ、課題にそって歌う。 ・グループごとのめあてを確認させ、聴き合う視点をもたせる。 ・曲の山を中心に重なり方に気をつけて表現していくよう助言する。
	4 交流タイム	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに交流し合う。 ・感想を交流し合い、表現に生かせるようにグループを巡視し声をかける。 ・音の重なり合いを感じながら聴くよう助言する。 重なり合う音を意識して表現しようとしている。
	・グループ練習	<ul style="list-style-type: none"> ・出された感想をもとに表現を深める。 * 努力を要する児童への手だて グループの友達の演奏を聴き、音の重なる部分を意識させ、一緒に歌ったり聴いたりするなかで気づくことができるようにさせる。
	・発表	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聴いたり、感想を交流したりすることで、表現や編曲の違いや表現のよさに気づかせる。
終末 5分	5 学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会をすることを伝える。 ・感想を発表する。 ・次時の学習の確認をする。

(3) 評価規準

評価規準(観点)	評価場面 (方法・用具)	評価規準	努力を要する児童への 対応・手だて
重なり合う音を意識して表現しようとしている。	教師による観察 発表	重なり合い方の違いに気づき歌ったり聴いたりしている。	グループの友達の演奏を聴き、重なり気づくことができるよう支援する。